

TSUDA TODAY

No. 134

津田塾大学

July 2025



2025年度入学式式辞

学長 高橋 裕子

最近の卒業生も、半世紀前に卒業した同窓生も、本学でもっともよかったことの一つは、「志の高い仲間に出会ったこと」と語ります。津田塾大学には、学生同士が協力しあって切磋琢磨するカルチャー、学生や卒業生がよく言う「津田スピリット」があって、みなさんも卒業する頃には本学で学んで本当によかった、と思ってくださると信じております。

2週間ほど前の卒業式でも、6学科6人の卒業生代表の挨拶に共通していたのは、この大学で自分自身の成長が実現できて本当によい選択をしたということです。成長の背景にあったのは、失敗を恐れなくてよいと励まされたこと、むしろ、不完全さから新たな価値や思考が生み出せると声をかけられたこと、異なる意見を述べても決して否定されないこと、常にチャレンジし続け、自らの伸びしろを長くするよう背中を押されたことだと言うのです。つまり、自分自身を信じて前進していけるようになったと、それぞれの言葉で語られていたことに心打たれました。

ご存じのように、世界の多くの国々と比べて日本はジェンダーギャップが極めて大きな課題となっている社会です。2024年の世界経済フォーラムの報告によれば、146カ国中118位です。

女子大学である津田塾大学では、125年の間、ここで学ぶ女子学生たちがそのような社会に出ていくことを前提に、女子学生を常にセンターに据えて、励まし、勇気づけてきました。

すべて女性を中心とする日常を送ることは、社会に出たら二度とできないような経験でしょう。大学での日常生活を通して、女性が中心に位置していること、そして女性が十分に力を発揮することに何の違和感もなくなる。無意識に身につけてきた性別役割から自由になることで、“We can do it”と自信をもてるようになり、自己肯定感や自分自身に対する期待や尊敬を高めることができる。自分の伸びしろが思っていたよりずっと長くなる。卒業生が語って



いたような時間をぜひここで過ごしていただきたいと思います。

今、津田塾大学記念交流館で「赤松良子展—均等法の母の足跡をたどる」が開催されています。初代婦人局長として、ちょうど40年前に男女雇用機会均等法を成立させた赤松さんは、津田塾大学が誇る「変革を担った」ロールモデルです。昨年2月にご逝去されましたが、70年以上も前に過ごした津田塾大学での思い出を、常に積極的に語っていただきました。ご遺贈くださった少女時代の日記には、戦争中の1943年、14歳の頃に、“I love Tsuda College. I will go there.”と英語で記されており、さらにノーベル平和賞を受賞したいとも宣言されています。そのために「汝の努力を傾けよ」と自分を叱咤激励しているのです。このような高い志が女子差別撤廃条約の批准や男女雇用機会均等法の制定、さらには、日本ユニセフ協会会長の職に繋がっていったのです。

本学を卒業後、東京大学の法学部に進まれましたが、ご自身の基盤は津田塾が作ったと話し、津田塾大学の次世代育成を力強く応援して下さってもいました。総合政策学科に赤松良子賞を設け、受賞者にはいつもランチのひとつを作ってくださいました。

大学の公式ウェブサイト“Diversity of Our Lives”には多彩な分野で活躍する、さまざまな年代の卒業生125人のプロフィールと、みなさんへのメッセージが掲載されていますので、ぜひご覧になってください。ロールモデルになる方々との出会いを大切にしていきたいと願っております。

2025年度入学者数

学部	学科	入学定員	1年次	2年次	3年次	4年次	計
学芸学部	英語英文学科	220	284	-	1	-	285
	国際関係学科	200	248	-	-	-	248
	多文化・国際協力学科	70	82	-	-	-	82
	数学科	45	50	-	-	-	50
	情報科学科	45	41	-	-	-	41
総合政策学部	総合政策学科	110	130	-	-	-	130
学部合計		690	835	-	1	-	836

大学院	課程	入学定員	1年次	2年次	3年次
文学研究科	修士課程	15	9	-	-
	(通常コース)	-	(6)	-	-
	(現職教員研修プログラム)	-	(0)	-	-
	(英語教育実践研究)	-	(3)	-	-
国際関係学研究科	後期博士課程	5	0	-	-
	修士課程	10	3	-	-
	後期博士課程	3	2	-	-
理学研究科	修士課程	10	8	-	-
	(数学専攻)	(5)	(6)	-	-
	(情報科学専攻)	(5)	(2)	-	-
	後期博士課程	3	3	-	-
	(数学専攻)	(2)	(2)	-	-
	(情報科学専攻)	(1)	(1)	-	-

注意事項
 1) 文学研究科修士課程のコース人数は内訳
 2) 理学研究科修士課程および後期博士課程は総数と専攻別人数(内数)を記載

2024年度卒業礼拝 説教要約

「今、最も大切なもの」 申命記 6章1～9節

安海 靖郎 氏 (東京インドネシア福音教会 主任牧師)

ご卒業おめでとうございます。

昨年梅子先生が新五千円札となり、その名と業績が多くの人に知られるようになりました。関連する書籍や記事では、その数奇な生涯と偉業、そして支えた人びとに共通する精神的支柱である「キリストへの信仰と神の愛」が紹介されています。

十字架にかかれる前、ひとりの律法学者からの質問に対し、イエスは「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして神を愛せよ。これが第1の大切な戒め。隣人をあなた自身のように愛せよとの第2の戒めも大切です」とお答えになりました(マタイ22章)。

解答の前半は申命記6章からの引用で、イスラエルの民が40年の荒野の生活を終え、いよいよ約束の地に入る際、預言者モーセを通して語られた言葉です。新しい民族、文化、宗教の地で、神の民の最も大切なアイデンティティがこれだと言うのです。

後半の第2の戒めは、創造主なる神を知り、愛し、その愛をもって隣人を愛することだと言っています。

このスピリットが脈々と流れる学び舎から、明日社会に巣立つ皆さんが「小津田梅子」となり、最も大切な精神を継承し、使命を果たして行かれますように。



2025年度新入生歓迎礼拝 奨励要約

「二つのコーリング」 “Two Callings” ～～ Grandma から Granddaughters に伝えたいこと ～～
イザヤ書49章1節b、ヨハネの福音書14章6節 (新改訳2017)

内田 みずえ 氏 (JECA 前橋キリスト教会牧師夫人)

一つ目の「コーリング」は「神様からの呼びかけ」、二つ目の「コーリング」は「神様の召し」、すなわち神様から使命を与えられることです。イザヤ書49章1節にあるように、神様は皆様が生まれる前から皆様を呼んでおられます。皆様には果たすべき使命があります。それを知ったらご自分の人生に大きな意味を見出すのではないのでしょうか。天地創造の神様がお造りになった最初の人間アダムは神様の命令に背きました。それ以来、アダムの性質は脈々と受け継がれてきました。神様の呼びかけが聞こえないとしたら、聖なる神様と神様に背く人間との間にギャップがあるからです。そのギャップを埋めてくださるお方がイエス・キリストです。ヨハネの福音書14章6節で教えられているように、イエス・キリストを通してでなければ、私たちは父なる神の元に行くことはできません。これから皆様は大学で多くのことを学びます。それと同時に、津田梅子先生を導き、支えておられた神様への信仰の土台を築き、イエス・キリストを通して神様を知り、神様からの二つのコーリングを自分のものとしていただきたいと願います。皆様が今の私の年齢である76歳になったとき、どんな歩みをしていらっしゃるでしょうか。



学位授与報告

博士の学位が以下のとおり授与されました。

橘 生子 (タチバナ イココ)

- 現 職：津田塾大学学芸学部国際関係学科助教
- 学位授与日：2025年2月19日
- 学位の番号：博士乙30号
- 学位の種類：博士 (国際関係学)
- 論文題目：ブラジル64クーデタと民主主義の崩壊—政治家プリゾーラと「イレブン (Grupos de Onze)」構想に対する反動—



津田梅子記念同窓会賞受賞者発表

津田塾大学同窓会では、成績・人物ともに優れ、奉仕の精神に富む4年生に対して、「津田梅子記念同窓会賞」を授与しており、このたび2025年度の受賞者が決定しました。皆さま、受賞おめでとうございます。

●学芸学部

英語英文学科 岡見 穂香
国際関係学科 助川 碧
数学科 小泉 怜子

情報科学科 竹川 由佳
多文化・国際協力学科 田中 月菜

●総合政策学部

総合政策学科 浅井 志穂

2024年度進路状況報告

2024年度卒業生の就職活動は、多くの企業がさらなる採用意欲の高まりを見せるなかで、例年以上に早い時期から動き始める学生の姿がみられました。就職決定率（就職希望者のうち就職先を決定した学生の割合）は昨年度と同様の96.7%となりました。当年度は文部科学省・厚生労働省・経済産業省の合意による「インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的考え方」の改正が適用される最初の学年にあたります。企業の開催するプログラムにも形式の幅が広がりました。それに伴い本学学生も早い時期からインターンシップに参加し早期選考に進む傾向が見られました。

このような採用活動の変化に柔軟に対応しながら、本学の学生たちは社会をよりよくすることを目標に進路を決めました。特に、教員は31名が決定し昨年の約2倍となりました。教育学部を有しない本学において、日々の学びの中で培った専門性や思考力、主体性が高く評価された結果だと考えます。公務員は、昨年の約1.5倍となる

38名が決定しました。民間企業への就職においては、デジタル化の進展により情報サービス業への関心が年々高まる中で、本学からも多くの学生がIT業界へと進んでいます。変化の激しい業界であっても、常に学び続ける姿勢をもつ津田塾生の気質が、企業等から高く評価されています。

学外学修・キャリアセンターでは、多様化する学生の進路ニーズに応えるため、個別相談枠のさらなる拡充を図るとともに、卒業生による企業説明会や座談会など、ロールモデルとの接点を増やす機会を設けました。OG訪問を通して、貴重なお話を伺い、業界理解を深めながら、将来像を描く学生も増えており、進路の選択や決定に大きく寄与していると考えています。お忙しいなか、後輩への温かいご支援をいただきましたOGの皆さまには、この場をお借りし、心より感謝申し上げます。今後も本学では、一人ひとりの個性や価値観を尊重し、学生が納得のいく進路選択を実現できるよう、全学的な連携のもと、きめ細やかな支援体制の強化に努めてまいります。

2024年度 卒業生進路状況

	学芸学部										総合政策学部		合計	
	英語英文学科		国際関係学科		多文化・国際協力学科		数学科		情報科学科		総合政策学科			
卒業生数	211		226		62		52		46		123		720	
就職希望者数	194	(91.9%)	202	(89.4%)	52	(83.9%)	39	(75.0%)	38	(82.6%)	103	(83.7%)	628	(87.2%)
就職者数(決定率 [※])	188	(96.9% [※])	196	(97.0% [※])	51	(98.1% [※])	37	(94.9% [※])	37	(97.4% [※])	98	(95.1% [※])	607	(96.7% [※])
進学者数	7	(3.3%)	11	(4.9%)	7	(11.3%)	9	(17.3%)	8	(17.4%)	8	(6.5%)	50	(6.9%)
その他	16	(7.6%)	19	(8.4%)	4	(6.5%)	6	(11.5%)	1	(2.2%)	17	(13.8%)	63	(8.7%)

() 内%の数字は卒業生に対する割合。 ※ただし就職決定率は、就職希望者のうち就職を決めた者の人数

学科別 教員・公務員就職者数

	教員 [※]		公務員	
	専任	常勤・非常勤	国家	地方
英語英文	12	4	2	7
国際関係	6	0	3	9
多文化・国際協力	—	—	2	1
数学	7	1	0	1
情報科学	0	1	0	5
総合政策	—	—	3	5
合計	25	6	10	28

※多文化・国際協力学科と総合政策学科には教職課程が設置されていないため該当者なし

学部別 就職者数の多い企業一覧 (順不同)

学芸学部		総合政策学部	
東京都(教員)	10	富士通(株)	4
日本航空(株)	9	BIPROGY(株)	3
SMBC日興証券(株)	4	アクセンチュア(株)	3
アフラック生命保険(株)	4	日本航空(株)	2
アンダーソン・毛利・友常法律事務所外国法共同事業	4	日本通運(株)	2
ダイキン工業(株)	3	日本アイ・ピー・エム(株)	2
(株)NTTドコモ	3	農林水産省	2
(株)日本総合研究所	3	東京都(公務員)	2
アクセンチュア(株)	3	ANAエアポートサービス(株)	2
神奈川県(教員)	3	(株)日本経済新聞社	1

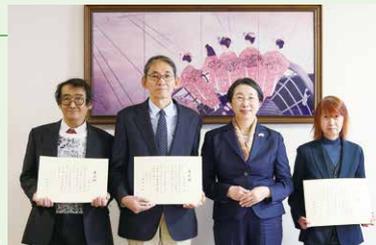
永年勤続 教職員表彰

永年勤続教職員表彰は、勤続20年、30年、40年の教職員の功績を称え表彰するものです。2025年3月31日をもって勤続年数が基準に達したとして、今年度は右記の教職員が表彰されました。なお、3月31日付退職者には、「津田塾友」の称号も授与されました。

2025年3月31日付退職者表彰 (部門別アルファベット順)

- <教員> 三澤 健宏 多文化・国際協力学科 教授
- <職員> 富士川 光子 情報サービス課メディア・サービス室 (図書館)
- 吉田 誠 情報サービス課メディア・サービス室 (図書館)

左から、吉田氏、三澤教授、高橋学長、富士川氏



2025年4月1日付表彰 (部門別アルファベット順)

- <教員> 米須 初美 英語英文学科 准教授
- 小館 亮之 総合政策学科 教授 (2025年度国内研修のため、表彰式は欠席)
- <職員> 池田 一彦 学生生活課
- 瀬川 ゆかり 教務課

左から、瀬川氏、池田氏、高橋学長、米須准教授



受賞おめでとうございます

本学学生が以下の賞を受賞しました。(敬称略。学年はいずれも発表当時のもの)

●第4回計算社会科学大会 石井晃賞(学生賞)

総合政策学部総合政策学科 4年 森田 佳乃子

高齢者は災害時にスマートフォンをどのように活用するか
—渋谷区高齢者デジタルデバイド解消事業の結果から—
(森田佳乃子、伊藤由希子、鈴木貴久)

<https://www.tsuda.ac.jp/news/2025/0314.html>



●JGSS 公募論文2024 優秀論文賞

総合政策学部総合政策学科 4年 原田 亜実

地域間における教育の機会格差の検証
—JGSS-2000-2018 累積データの分析から—

https://www.tsuda.ac.jp/news/2025/0324_1.html



新任教員紹介



学芸学部 国際関係学科
准教授 田邊 恵子

近現代ドイツ思想・文学を専門としています。とくに、ユダヤ系文筆家ヴァルター・ベンヤミンが書いた作品の研究に取り組んでいます。授業ではドイツ語、文学に関する講義やセミナーを担当します。とつきにくいと思われがちな、しかしとても魅力的なドイツ語の世界のさまざまな面を、研究や授業でお示しできたらと思っています。



学芸学部 多文化・国際協力学科
准教授 近藤 宏

専門は文化人類学で、南米の低地地域に暮らす先住民の社会や文化を専門にしています。調査先はパナマとコロンビアです。熱帯林に暮らす、あるいは暮らしていた先住民がいまをどのように生きているのかを考えてきた経験をいかし、世界の様々な地域のいまを考えながら、自分たちのいまを考え直すきっかけとなる授業ができればと考えています。どうぞよろしく申し上げます。



学芸学部 情報科学科
准教授 上田 祥代

認知心理学と情報科学を融合したアプローチで、認知情報処理の特性を解明し、新たな人間観や世界(他者・もの)との関わり方を探ることを目指しています。例えば、VR環境で拡張身体を操作することで生じる認知・行動の変化や、群衆における多様性の認知メカニズムに関する研究を行っています。どうぞよろしくお願いたします。



学芸学部 国際関係学科
講師 元橋 利恵

このたび国際関係学科に着任いたしました元橋と申します。専門は母性や母親、ケアをテーマにした家族社会学、フェミニズム、女性学、ジェンダー論になります。授業は、福祉社会学、家族社会学、ソーシャルインクルージョン論などを担当しております。どうぞよろしくお願申し上げます。



学芸学部 英語英文学科
助教 近藤 森音

専門は言語学で、特に、名詞と動詞の特徴を併せもつと言われる、形容詞の語形成に興味をもっています。作家の開高健が「戦禍で最初に消えるのは形容詞だ」と言いましたが、津田塾には色とりどりの植物があり、さまざまな鳥がいて、形容できることの平穏さを感じます。この静かで豊かな環境で研究や教育ができることを、とても幸せに思います。



学芸学部 国際関係学科
助教 橋 生子

本学の国際関係学研究科で学び、2025年2月に博士号を取得しました。高校時代に一年留学したブラジルで政治参加と民主主義に興味をもち、それからブラジル政治史を中心に、ラテンアメリカ地域研究と国際関係学の分野で研究を深めています。自分らしさや独自の視点を大切に、学生の皆さんと一緒に学んでいけたら嬉しいです。



総合政策学部 総合政策学科
助教 桜 侑楠

総合政策学部に着任しましたサク セイナンです。Web情報システム論を担当します。廃棄物管理、特に家庭ごみ分別行動の促進について研究してきました。環境政策と消費者行動変容に関心があり、実践につながる学びを学生の皆さんと共に深めていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。

新任職員紹介

教務課

比樂 光太郎

前職では学校法人にて、教職として進路指導や生徒募集、教務に携わっておりました。この度ご縁をいただきまして、歴史ある津田塾大学にて学生の成長に貢献できることを大変嬉しく思います。これまでの経験に甘んじることなく、一日でも早く貢献できるよう精進してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

総務課

近藤 耕生

前職でも大学職員として、入試部および総務部にて勤務しておりました。このたび、津田塾大学の一員として働けるご縁をいただき、大変光栄に存じます。本学のさらなる発展に貢献できるよう、誠心誠意努めてまいります。新たな気持ちで精進してまいりますので、今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。

学芸学部事務室（多文化・国際協力量科）

西川 るる

卒業後は杜の都に暮らしながら東北地方をしばらくさまよい、はたまたいけふくろうのいる街をさまよい…気がつけば小平の森に帰り着いていました。母校で学べた喜びと母校で働く喜び、両方を知る幸いに感謝し、学生にも教職員にも近い部署で津田津田しく仕えていきたいと思えます。

経営企画課

大島 航洋

学生時代を小平にほど近い武蔵野の森のなかで過ごし、これまで卒論の指導教員、前職の上司など、熱意あふれる津田塾卒業生との出会いがありました。この度さらなる縁あって創立125年の節目を迎える津田塾の一員になることを嬉しく思います。大学の理念の実現に向けて精一杯努めますので、どうぞよろしく願いいたします。

経営企画課

檜山 春菜

4月から新任職員としてお世話になっております、檜山春菜と申します。学生時代を東京多摩エリアで過ごし、その後は地元に戻っていましたが、この度、縁あって懐かしい場所に帰ってまいりました。パワフルな津田塾の皆さまのために、少しでもお役に立てるよう頑張りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

教育研究支援事務室

文字 達也

4月より教育研究支援事務室に配属となりました。これまで国立大学法人や独立行政法人にて研究支援や庶務、管理業務に従事しておりました。これまでの経験を活かして本学の発展に貢献できるよう力を尽くしてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

管理課

越智 悠花

この4月から新たに職員としてお世話になります。前職では、中高一貫校にて英語教員をしておりました。教育機関の運営や支援に携わりたいと思い、ご縁があって本学で勤務する運びとなりました。緑豊かなキャンパスを、よりよい環境にしていくために少しでも尽力できればと思っております。よろしく願いいたします。

千駄ヶ谷キャンパス事務室

渡邊 耕平

前職では内装施工会社にて、修理手配や現場管理に携わっていました。学生や教員を支援、産学連携にも関わることでできる大学職員として働けることを嬉しく思うと同時に、責任の重さも感じています。大学での仕事は初めてですが、学ぶ姿勢を大切に、これまでの経験を活かして、皆さまのお役に立てるよう努めてまいります。



津田塾大学2025年度事業計画

I 基本方針

自立した女性の育成のために、質の高いベラールーツ教育を目指した津田梅子が創立した女子英学塾の建学の精神は、津田塾大学の教育理念として、今日に至るまで連続と受け継がれている。建学以来の伝統である高度な英語教育、少人数制セミナーを柱とする教育は、新学部、新学科、学科横断コースの設置や習熟度別クラスの導入などの工夫をさまざまに重ねつつ、それぞれの時代の要求する高度な能力を備えた人材を社会に送り出してきた。しかし、グローバル化の進展、生成AIの急速な普及等により学びを取り巻く環境は大きく変化している。また、少子化が加速し大学間競争が激化しつつある現在、本学は大学としてのミッションを再確認するとともに、迅速に改革を押し進め、他大学にはない個性と特色を打ち出す必要に迫られている。

津田塾大学では、2017年に中長期ビジョンTsuda Vision 2030を策定した。そして、Tsuda Vision 2030を着実に実現するために、2019年度に第1期中期計画(2020年度-2023年度)を立案し、中期計画の実行を進めている。2024年度からは、第1期中期計画の成果と課題に基づき、第2期中期計画(2024年度-2027年度)を立案し、中期計画に則って年度毎に事業計画を立て、各事業を実施している。本学における教育研究の成果の向上と強固な経営基盤の確立に繋がるよう、改正された私立学校法・寄附行為及び大学設置基準に則り、重点事業、各経常事業に取り組む。

第2期中期計画に基づき、2025年度事業計画では、以下を重点的に実施していく。(学部再編)

- 既存学部の再編、新たな数理・データサイエンス系統学部の設置による学部再編に向けて、学内の教育リソースの再配分計画を決定する。

(国際化)

- 国際的な人材の育成を重視し、国際交流の推進と留学生の受け入れ拡充に注力する。特にアジア圏を対象とした学生の募集に取り組む。

(キャンパス整備)

- 小平キャンパスマスタープラン全体修正計画案に則り、校舎や寮などの新築に向けて順次進めるとともに、本学のシンボルである本館(1931年建築)の天井改修、高圧受電設備(第2期)の更新工事などの整備を行う。

(経営)

- 改正された私立学校法・寄附行為に則り、理事会等機関の整備と、役割分担の明確化を行う。
- 教職員が本学の構成員であることに誇りを持ち、長期的に安心して勤務し、能力を発揮するための方策(職員組織や給与制度の見直し、教職員評価制度の策定)を講じる。
- 創立125周年記念事業募金を実施するとともに自主財源の拡大のため、資産運用額を毎年1億円増として資産運用の拡大を行う。

II 事業計画

1. 重点事業

2025年度は第2期中期計画に沿って以下の重点事業を実施する。

(学部再編に関する計画)

- [1] 学部再編による新しい教育体制の構築

(国際化に関する計画)

- [2] 国際化推進
 - 国際交流の推進と留学生の受け入れ拡充を図る。
 - 海外留学・経験の促進

(教育に関する計画)

- [3] 学部カリキュラムの見直し
- [4] 大学院進学者の確保
- [5] 教育環境の整備
- [6] 学部入試改革
- [7] 国家資格となる「登録日本語教員」への対応

(学生支援に関する計画)

- [8] 学生生活の支援強化
- [9] 奨学金制度見直し
- [10] 学外学修・進路支援強化

(研究に関する計画)

- [11] 研究の推進及び研究費の適正な管理

(社会貢献に関する計画)

- [12] 社会貢献

(施設・設備整備に関する計画)

- [13] 建築(小平キャンパスマスタープラン)
- [14] 設備更新(建造物関連)、修繕
- [15] 設備更新(情報関連)
- [16] 省エネ対策

(業務運営体制の整備に関する計画)

- [17] 私立大学ガバナンス・コードを指針とするガバナンス体制の強化
- [18] 教職員の中期的人事計画の策定、実施
- [19] 教職員の安全で快適な就労環境の構築
- [20] 個々の職員がポテンシャルをフルに発揮できる就業制度の構築と長時間労働の是正
- [21] 業務分析、見直しの実施と、電子化の推進、業務の効率化、生産性の向上
- [22] 認証評価

(資金に関する計画)

- [23] 資金計画

(広報に関する計画)

- [24] 広報活動

(記念事業に関する計画)

- [25] 創立125周年記念事業

III 予算の概要

2025年度予算については、物価高騰による支出の増加を抑えるため、2023年度から

行っている支出削減を継続することを前提に予算を立案している。2024年度の想定決算見込は「遺贈」等による寄付金収入が著しく増加した事により大幅な黒字収支の見込であるが、2025年度は7百万円の黒字見込として立案している。支出面では、小平マスタープランの実行(ウェルネス館建築)や、予定外の支出である本館天井の全面的な改修、5号館AVライブラリー改修、人材管理データベース等の導入を行うことから、(前年度予算比)教育研究経費102百万円増、管理経費13百万円増となる。収入面においては、2025年度入学者から対象となる学費改定を反映し(前年度予算比)学生生徒等納付金91百万円増を計上している。寄付金収入については、2024年度から募集している創立125周年記念事業募金による増加を見込み、(前年度予算比)寄付金収入16百万円増と計上した。総じて収入が増加する一方で、支出も大きく増加しており、厳しい収支構造が2025年度も続く事が予想されるが、年間を通して支出の削減を引き続き行い収支のバランスを整えていく。

上記状況のもとに予算を作成した結果、事業活動収支の経常収支差額は7百万円、基本金組入前当年度収支差額も7百万円となり、黒字を確保できる見込みである。昨年に引き続き、収入増加の大きな要因をなす入学者数の確保とともに、支出削減に努め、財政の健全性を維持していく。

資金収支の翌年度繰越支払資金は546百万円であり、目安としている500百万円以上の手元資金を確保している。

以下、事業活動収支予算書と資金収支予算書について、2024年度予算に対する2025年度予算の主な増減とその要因、および特記すべき収入・支出を示す。

● 事業活動収支予算書

経常収支差額	7百万円
特別収支差額	35百万円
予備費	△35百万円
基本金組入前当年度収支差額	7百万円
基本金組入額合計	△998百万円
当年度収支差額	△991百万円

主な増減(前年度予算対比)とその要因

(単位:円)

	科目	増減	要因
収入	1 学生生徒等納付金	91百万円増	1年生は予算定員で計上 学費改定により増加
	2 寄付金	16百万円増	125周年記念事業開始
	3 経常費等補助金	15百万円増	経常費補助金380百万 高等教育修学支援135百万計上
	4 付随事業収入	△3百万円減	入寮金、寮舎費2024年度並み
	5 雑収入	9百万円増	退職金財団交付金収入25百万円減、モデルルーム収入により35百万円増
支出	1 人件費	23百万円増	教職員人件費:65百万円支出増 退職給与引当金繰入:42百万円減
	2 教育研究経費	146百万円増	5号館AVライブラリー改修、データベース利用料増
	3 管理経費	14百万円増	新学部業務委託他増

● 資金収支予算書

翌年度繰越支払資金	546百万円
-----------	--------

主な増減(前年度予算対比)とその要因

(単位:円)

	科目	増減	要因
収入	1 その他の収入	459百万円増	奨学金引当特定資産取崩43百万 退職給与引当特定資産取崩40百万 減価償却引当特定資産取崩881百万
	学生生徒等納付金、手数料、付随事業収入、雑収入の増減は事業活動収支と同一 寄付金、補助金は、事業活動収支で説明済み		
支出	1 人件費支出	30百万円増	教職員人件費:65百万円支出増 退職金支出:34百万円支出減
	2 教育研究経費支出	102百万円増	事業活動収支と同様。ただし、減価償却額を除く
	3 管理経費支出	13百万円増	事業活動収支と同様。ただし、減価償却額を除く
	4 施設関係支出	484百万円増	・小平キャンパスマスタープラン(ウェルネス棟工事等) ・本館天井改修工事(第1期) ・小平キャンパス高圧受変電設備更新工事(第2期) ・図書館(丹下館)空調機更新 ・小平キャンパス照明LED化工事(1号館、大学ホール) ・H315 PC用電源コンセント設置他 合計830百万円計上
	5 設備関係支出	142百万円増	・ウェルネス新設棟のネットワーク設備構築等 ・1号館旧棟空調更新 ・小平キャンパス・電話機交換機の更新他 ・5号館AVライブラリー改修 ・教学システムの機能強化 ・人材管理データベースシステム等 ・人事給与システム 合計341百万円計上
	6 資産運用支出	92百万円減	奨学金引当資産繰入3百万 退職給与引当資産繰入28百万 減価償却引当特定資産繰入200百万 特定目的引当資産繰入2百万 他 合計234百万円計上

以上

津田塾大学2024年度事業報告書(抜粋)

1. 事業の概要

1.1 重点事業

2024年度は第2期中期計画(4年間)の初年度であり、各分野の目標については概ね達成できた。特に第2期中期計画では、日本人女性として自然科学研究の先駆者の1人である津田梅子の精神を継承すべく、学芸学部を再編し理系学部を新設する計画を立てており、2028年度の理系学部設置に向けて、2024年度は新学部設置準備室で高校教員等への需要状況の事前調査の実施や英語教育、共通教育のワーキンググループを設置し、英語教育、共通教育の見直し等に向けての検討を実施した。3学部体制のもと、専門知識を深める一方で、幅広い視野をもち、異なる分野とのつながりを理解する学生を育成する目的に向かって、次年度以降も引き続き計画を推進していく。

2024年度は重点事業として以下の事業を実施した。

[1] 学部再編による新しい教育体制の構築

- 共通教育WGおよび英語教育WGを立ち上げ検討を進め、11月1日に全学将来構想委員会に答申が提出された。
- 答申について全学将来構想委員会および学長会議で検討を行った。
- 英語教育については、全学的に共通科目を設置する構想で検討が進められている。
- 入試動向分析レポートの作成を依頼した。高校教員(7校)へのヒアリング調査をうけてデータサイエンス分野における潜在的な入学希望者の調査を行った。

[2] 国際化推進

- 正規留学生の中で最も比率の高い中国人私費留学生にヒアリングを行い、中国人留学生のニーズを確認した。また、日本語学校(夏木学園)にて説明会(7月15日)を行い、オープンキャンパスの広報を行った結果、学生の参加があった。
- ミャンマー向けオンライン日本留学フェア(8月29日・30日)に参加、説明会には220名、相談会には20名程度の学生が参加した。
- 英語で行われる授業について、留学生へのオリエンテーション時の説明また配付資料への記載を行い、履修を促した。
- 2024年5月に、下記2校と授業料相互免除を含む新規学生交流協定を締結した。コンケン大学(タイ) チュラロンコン大学(タイ)
- 派遣、受入体制整備のため、学外学修・キャリアセンターが行うイベント等の周知やプログラムおよび学内奨学金についての協議を行うとともに、学生生活課や教務課などの関連部署と部局横断的に相談、情報収集・共有を行い体制強化を図った。
- 以下の短期語学研修プログラム2件を新たに開拓・実施した。シドニープログラム(オーストラリア)(参加人数16名) セントヒルダプログラム(英国)(参加人数24名)
- 津田塾大学創立125周年記念 国際化推進事業として、5月15日に「ロジャー・パルバース氏講演会」を実施した。
- 7月12日に行われた東大和南高等学校の生徒との交流会に本学への交換留学生2名が参加した。
- パイオニア・スカラシップ:2024年8月にプリンマー大学へ留学を開始した学生1名に250万円を支給した。2024年度の選考を1月に実施し、新たに2名を採用した。
- 既存の留学のための学内奨学金について、例年通り奨学生を募集・選考を行い、海外留学を促進した。
- 「文学研究科鷲見八重子海外研究支援奨学金」「文学研究科鷲見八重子海外研究支援奨学金に関する規程」に基づき審査を行った結果、受給者1名、支出金額は499,081円となった。受給者(修士課程)は、米国Washington D.C. アメリカ議会図書館にてアーカイブ資料収集を目的とする調査活動を行った。

[3] 学部カリキュラムの見直し

- 数学科において、初年次教育の検討、見直しを行った結果、2025年度入学者から1年次を対象とした「数学基礎講座Ⅰ」、2年次以上を対象とした「集合・写像入門(演習付)」、「集合・写像実践」、2年次以上の学生で学科が履修を推奨する学生を対象とした「数学基礎講座Ⅱ」を開講することとなった。また、実験的講座として開講した「ベクトルと行列」、「大学数学への窓」を正規カリキュラム科目として再配置した。
- TECCでは、eラーニングシステムを採用し、学生の自律的学習を推進している。
- 英語英文学科では、「英語英文学科での学び」の開講タームを第1タームに変更し、入学直後から学科の学びの概要が理解できるようにした。
- 情報科学科では、リメディアル教育として「大学数学入門」を開講している。
- 英語英文学科では、基礎的な学習方法を教える必要があるとの共通認識のもと、「基礎セミナー」で使用するための基本的な共通テキスト・参考書の検討を学科で始めている。

[4] 大学院進学者の確保

- 履修証明プログラム(翻訳プログラム)の修了要件科目である「翻訳の世界」を2025年度から「翻訳の世界 a」、「翻訳の世界 b」、「翻訳の世界 c」に分割し、「翻訳の世界 a」は一般の科目等履修生にも提供する。より広い対象に提供することで、プログラムの周知と志願者増を目指す。過去、履修証明プログラム修了者が大学院に進学した実績もあることから、プログラムを含めた科目等履修生制度をより活性化し、大学院進学に繋げる。

[5] 教育環境の整備

- 2024年度より、教学システムのリプレイスに伴い大学公式授業支援システム「TsudaNetポートフォリオ」に代わりGoogle Classroomが稼働しており、大きな問題なく運用されている。
- 今後の大学公式LMSの選定に向けて各種LMSの情報収集を行っている。

[6] 学部入試改革

- 入試戦略ワーキンググループにて、一般選抜の実施体制等の見直しについて検討し、答申を学長室に提出した。
- 各学科にて、学校推薦型選抜の指定校について見直しを行った。

[7] 3学部体制での初年次教育・リメディアル教育、全学共通科目の充実

- 2028年度に3学部体制となることを視野に入れ、共通教育WG及び英語教育WGを立ち上げ検討を進めてきた。WGからの答申を受け、今後さらに検討を進める。
- 2028年度に3学部体制になることを視野に入れ、英語教育を全学的に管轄する組織の

あり方を検討している。その組織のもとで英語のリメディアル教育を今後整備していく。

[8] 国家資格となる「登録日本語教員」への対応及び登録日本語教員制度への対応

- 「登録日本語教員 実践研修・養成課程コアカリキュラム」(文部科学省日本語教育協会)の要件に合致するように、令和7年度入学者カリキュラムの整備を行った。
- 申請にあたり必要となる学内事務規程の策定を進めるための作業部会を結成し、作業を進めている。

[9] 学生生活支援強化

- 渋谷区男女共同・ダイバーシティセンター(アイリス)の協力を得て、6月に実施。本学学生が9名申し込みを行い、当日は5名の学生が参加した。
- 新ウェルネス棟の活用を視野にいれつつ、現時点でできることとして、前期の終わりにウェルネス・センター職員、学生生活課職員、ジェンダー・セクシュアリティ相談室「にじいろルーム」にじいろルームカウンセラー、ウェルネス・センターカウンセラーとで情報共有の場を設け、意見交換を行った。
- 「にじいろルーム」の広報手段として、塾祭においてブースを設けた。また、学生のジェンダーに関する理解を深める目的として、新入生オリエンテーションにおける新コンテンツとして、ジェンダー、セクシュアリティに関する説明動画と津田塾大学におけるトランスジェンダー学生受け入れに関する取り組み状況の説明を行った。同様に、職員への啓発活動として10月1日付の中途採用職員のオリエンテーションにおいても同じ動画を視聴する機会を職員研修のコンテンツに追加した。9月、11月には教職員対象の研修を実施した。

[10] 奨学金制度見直し

- 2025年からの経済支援型奨学金実施に向けて、2023年に保留となった奨学金規程の見直しを行った。具体的には、2025年からの高等教育の修学支援新制度により多子世帯への拡大が決まったことにより、更なる支援拡大が想定されることから、高等教育の修学支援新制度を受けられる要件を満たさないが、日本学生支援機構無利子貸与奨学金の経済基準に当てはまる世帯の学生を中心に支援が出来るように規程案を改めて作成し、全学学生委員会において承認を経た。
- パイオニア・スカラシップについては、2024年8月にプリンマー大学へ留学を開始した学生1名に250万円を支給した。今年度の選考は1月に実施し、新たに2名を採用した。また、海外活動奨励金を含め、短期・長期を対象とした学内奨学金の募集を計画通り実施し、留学および海外活動の支援を行った。
- 奨学金制度の見直しを行った。具体的には、民間団体奨学金の学生への周知に際し、対象者を明確化した上で周知した。学内奨学金はカテゴリ別に分類し、わかりやすいレイアウトに修正し閲覧方法の整備を行った。
- 学外学修・キャリアセンターの組織運営体制の整備を行った。具体的な取り組みは以下の通り。
 - 7つの津田塾プログラムを開講、98名が参加した。1年生35名、2年生19名が参加し、初めて学外で学ぶ機会・自身の専攻やキャリアを考える機会となった。
 - スキル系講座を4講座開講、合計199名が参加。
 - 履修申請は53件。うち、海外は16件。
 - 第2タームキャリア科目「1、2年生のための就職基礎講座」は111名が履修した。
- 学生一人ひとりに合った支援を目指し、学外学修・キャリアセンター常駐のキャリアコンサルタントが個別相談に応じており、7月までに延べ300名弱の学生の対応を行った。
- 11社の企業の協力のもと、4月~7月にかけて密な関係を図れる少人数セミナーを開催し実際に内定につなげることができた。
- 障害を持つ学生を対象に6月に個別相談会(パーソルダイバース株式会社)、9月に生活リズムチェックセミナー(堀江車両株式会社)を実施。12月にパーソルダイバース株式会社のセミナーを実施。また、就職を希望する留学生に対し面談を行い、卒業後も就活のため一定期間日本に留まることができるよう支援した。

[12] 研究の推進及び管理

- 言語文化研究、国際関係研究、数学・計算機科学研究及び総合政策研究の各分野を重点研究領域として、左記の研究が各研究者によって行われており、今後も継続されていく。
- 6/6に2024年度科研費調書作成セミナーを実施した。また、2025年度科研費の公募の時期には、教育研究支援事務室職員とURAが、研究計画書の確認・改訂の支援を行った。2024年度の学内ピア・レビュー制度の利用者はいなかった。2025年度も両取り組みを継続していく。
- 大学院進学情報サイトのコンテンツ(OGからの寄稿記事、大学院進学情報)を充実させた。9月から後期博士課程学生支援相談員制度を開始した。これらの取り組みは、大学基準協会による大学評価(認証評価)における長所として、「学生の視野や進路の幅の広がりが期待できるとともに、大学の基本理念を体現化した有為な成果が期待でき、高く評価できる」とされた。
- 各研究所の紀要・学位論文等が定期的にリポジトリで公開されている。
- 受講対象者はほぼ全員が、コンプライアンス研修・研究倫理研修を受講した。また、必要な啓発活動を諸会議やメールを通じて実施した。

[13] 社会貢献

- 2024年5月に「アンネのバラ」植樹を記念してのシンポジウム「平和とは何か—アンネのバラ、原爆、そして戦後80年」に続き、「アンネ・フランク展」を開催した。
- 自主フォーラム「英語のひろば」を中心として実施した企画では、小平地域の小・中・高校生と在学生が共に学ぶ形でのプログラムを行った。
- 英語教員のためのワークショップ、数学教員のためのワークショップでは高大連携校の教員の受講は無料とし、受講対象者の幅を広げて開催した。引き続き、社会人でも履修できるカリキュラムの可能性を検討する。

[14] 建築(小平キャンパスマスタープラン)

- 小平キャンパスマスター全体修正計画案に則り、所定の施設整備を推進した。
- インフラ整備(井水関連)については、警報の設置を行った。今後、沈砂槽改良に向けた検討を行う予定である。
- ポンプ所の耐震改修の前段階として耐震診断を実施した結果、構造躯体の修繕は必

要なもの緊急性は低く、耐震補強は不要であることが判明した。
・ウェルネス館の実設計及び新2号館の基本設計は計画どおりに進捗している。
・寮の新築については、設計・施工業者の選定を完了し、設計業務を進めている。

[15] 設備更新(建造物関連)・修繕

小平キャンパスマスタープラン全体修正計画にのっとり策定した中長期の修繕計画の見直しを行い、既存建物、什器、AV機器等の修繕や更新を計画的に行った。

[16] 設備更新(情報関連)

・2023年3月にCALLシステム検討WGから学長室へ報告書が提出された。財務状況等を踏まえ大学執行部から今後の方向性を示したうえで、カリキュラム編成・指導方法・システムの実利用等から、当該授業科目の開講(英語英文学科・TECC等)にて指導法・教材等を含め今後のあり方を検討する必要がある。
・情報端末(iMac)は2025年2月にすべて撤去した。
・S205、S206、S304教室の中間モニター以外のAV設備を更新した。
・千駄ヶ谷キャンパスの無線APを更新した。

[17] 省エネ対策

第2期中期計画にのっとり、所定の設備改修を推進した。なお、2025年2月、関東地区電気使用合理化委員会委員長表彰の最優秀賞を受賞した。
この表彰は、電力の有効利用促進や負荷率改善等、合理化に成果を収めた事業所等が表彰されるもので、2023年度の取組み、第2期中期計画における省エネ具体化目標が評価されたものである。

[18] 私立大学ガバナンス・コードを指針

・一般社団法人日本私立大学連盟私立大学ガバナンス・コード第1.1版に基づき、学内でガバナンス・コードの遵守状況を点検し、一般社団法人日本私立大学連盟へ報告するとともに、大学webサイトへ点検結果を公表した。
・改正された私立学校法に基づき、文部科学省へ寄附行為変更認可申請を行い、寄附行為の認可を受けた。また、同時に内部統制システムの基本方針を策定し、それにに基づく各種規程の整備を行った。

[19] 教職員の中期的人事計画の策定、実施

・キャリア・ディベロップメントワーキンググループ(以下、CDWG)の活動を再開し、職員の人事評価制度に用いる人事評価システムの検討を開始し、2025年10月までに、職員の人事評価制度を策定し、理事会に報告することとした。
・第2期中期計画「業務運営体制の整備に関する計画」に則り、本学の重要な人財である教職員が、教育研究や大学運営業務に誇りを持ち、中長期的に安心して勤務し、能力を発揮していくための土台・環境を整えることを目的に、職員組織・給与制度・評価制度検討WGを立ち上げた。
・2025年度から、人事評価システムを導入することを目的に、人材管理データベースに関する情報収集を進めた。
・CDWGは、「2024年度キャリア・ディベロップメント目標設定シートを更新し、職員の目標設定のあり方(個人目標のほかに第2期中期計画に関する項目を各自の達成目標に追加)、具体的な数値等で評価できるようにした。
・他大学の教員の教育・研究・管理運営・社会貢献に対する評価の実施状況を調査した。

[20] 教職員の安全で快適な就労環境の構築

・「事業場における心の健康づくり計画」に基づき、前期はメンタルヘルス研修(セルフケア)を実施し。後期には、ラインケア研修を実施した。
・リスクマネジメント研修を実施した。
・「教職員のためのハラスメント防止のための研修会」に加え、学生対象の研修会として「ハラスメントの被害に遭わないために～ハラスメントの知識と、予防としてのアサーション・トレーニング～」を、教職員を対象に「セクシュアル・ハラスメント被害をなくすために」を実施した。

[21] 個々の職員がポテンシャルをフルに発揮できる就業制度の構築と長時間労働の是正

・長時間労働を抑制するため、事務室の消灯時間を19時30分とした。
・職員勤務規程を改正し、勤務時間をシフトし、勤務できるようにし、ワークライフバランスの充実に努めた。
・テレワーク勤務の利用回数を一月4回から一月8回まで使用できるようにした。

[22] 業務分析、見直しの実施と、電子化の推進、業務の効率化、生産性の向上

・ペーパーレス化の取り組みとして、2025年度からの非常勤講師契約書の契約手続の電子化を進めるとともに、2025年度から、学長から手交する発令書以外は原則、発令書の発行を取り止め、発令簿により教職員に周知することとし、準備を進めた。

[23] 認証評価

・大学基準協会による「大学評価結果」は「適合(2025年4月1日から2023年3月31日まで)」であり、「長所」1件、「改善課題」3件、「是正勧告」2件が示された。「大学評価結果」公表後、外部評価委員会を開催し、外部評価委員より、評価結果に対する意見聴取を行った。
・2025年度以降は、外部評価委員からの意見を踏まえ、全学自己点検・評価委員会にて「改善課題」と「是正勧告」に対する対応事項の方向性・道筋に関して検討の上、大学運営会議に上程・審議依頼し、大学運営会議からの改善指示のもと、全学的に改善を進め、2028年7月末までに大学基準協会へ「改善報告書」の提出を行う。
・2025年度大学評価・短期大学認証評価実務説明会に経営企画課担当者が出席し第4期認証評価申請の詳細を確認した。その後、全学自己点検・評価委員会及び大学運営会議に報告し準備を進めていく。

[24] 資金計画

・「125周年記念事業寄付」や「遺贈」を多数頂いた事から大きく収入増となった為、財政運営は良好な状況となっている。遺贈を含む寄付金収入が予算通りであった場合でも収支差額は若干の黒字となっている。また、支出削減についても、コンサル業者を活用した現状支出の分析により、「多くの支出が市場価格=適正な価格」となっている事が確認できた。また削減可能な項目についても、業者との値段交渉を行い削減する事ができている。

・「人件費比率50%台」「教育研究経費比率30%以上の確保」「事業活動収支差額比率3%以上」については全て達成できた。
・2024年度の資産運用として新たに社債2億円分の購入を行った。

[25] 広報活動

・高大連携事業に注力し、2025年3月現在で目標の20校と高大連携協定を締結した。引き続き関係性強化を図り、高大連携校からの受験者、入学者の増加を狙う。

[26] 創立125周年記念事業

・5月15日ロジャー・パルパース氏による講演、「EVERYTHING YOU HAVE EVER WANTED TO KNOW ABOUT THE ENGLISH LANGUAGE」(津田塾大学創立125周年/津田梅子生誕160周年記念事業 国際化推進事業)を開催し、本学学生および教職員に加え、一般の方々も多く参加した。

2. 財務の概要

2.1 事業の統括

2.1.1 経営状況の分析

2024年度の事業活動支出計は4,559百万円となり、予算(4,474百万円)に対し85百万円の支出増加となった。これは物価高騰による「経費支出」の増加や入院院動向に基づく俸給表の引上げ等による「人件費支出」の増加が主な要因である。「経費支出」については、年間を通じて削減に努めておりコンサルティング会社を利用した経費削減の実施をおこない、一定の成果(業者との値下げ交渉、市場価格の把握や本学の購入実績が適正である事の裏付けを確認できた事)を得ている。

事業活動収入計は、4,841百万円となり、予算(4,560百万円)に対し281百万円の増収となった。大きな要因は「遺贈寄付」や「周年事業募金事業」を含めた寄付金収入の増加で、予算(68百万円)に対し400百万円のご寄付を頂いた結果である。

事業活動収支計算書上で収支差額を表す「基本金組入前当年度収支差額」は、282百万円の黒字となった。寄付金収入の増加が主な要因ではあるが、次年度以降も経費削減に努め健全な経営を目指していく。

2.1.2 経営上の成果と課題

2024年度は大幅に黒字となったが、寄付金収入の増加によるものであり次年度以降も同様の収入増は見込めない為、支出削減に努め資産運用などの多様な収入の増加を行っていく必要がある。また、2028年度から設置を予定している理系学部に対する補助金を獲得し、新学部の拠点となる新2号館の建設に対する補助金(約1,500百万円)を得る予定となった事は、大きな成果となった。

2.1.3 今後の方針・対応方策

第2期中期計画にて定めた通り、「人件費比率50%台」「教育研究経費比率30%以上」「事業活動収支差額比率3%以上」を財政指針とし、安定した経営を行っていく。また、収入の7~8割を占める学生生徒等納付金収入は、18歳人口の減少により現在の水準を維持していくための方策が求められているため、2024~2027年度(第2期中期計画)は、3学部への移行、国際化の強化を中心とした方策を実施し志願者の増加を目指していく。

2.2 決算の概要

当年度決算の概要について、収支計算書(事業活動収支計算書、資金収支計算書)の状況および貸借対照表の状況を説明する。なお、収支計算書の説明における「増」、「減」は、特に断り書きがない限り予算額に対する決算額の増減を表し、貸借対照表の説明における「増」、「減」は、前年度に対する増減を表す。また、金額はすべて百万円未満を四捨五入している。

2.2.1 収支計算書の状況

2024年度は、經常収支差額が255百万円と大幅な黒字となり、資金収支の翌年度繰越支払資金は860百万円と、十分な金額を確保する結果となった。

収入面では、学生生徒等納付金に影響する入学人数は、予算定員を確保する事ができたが、在学生において休学・留学に対する学費減免が想定より多かったことにより、37百万円減少した。次に補助金収入においても「収容定員に対する学生数の割合」が増加した事、「専任教員数に対する学生数」が増加した事により、経常費補助金の増減率におけるマイナス補正が増加した為、43百万円減少した。しかしながら寄付金収入については、「遺贈寄付」や「125周年記念事業募金」で多大な寄付を頂いた為、332百万円増加した。一方、支出面では、高等教育修学支援制度等の奨学費が23百万円増加し、教学システムの追加改修、125周年記念事業の事務費用等による手数料・報酬費用が15百万円支出増加となった。また、本館天井改修や小平キャンパスの高圧受変電設備更新工事等により減価償却額が41百万円増加している。このような支出の増加はあったが、年間を通じて効率的な予算の執行に努め支出の増加を防ぐ事に努めている。

なお、次年度は本年度の様な多大な寄付金収入は見込めないが、2025年度入学者から適用される学費改定により学生生徒等納付金収入の増加を計上している事、また支出面でも予算執行時の効率化を引き続き行い、健全な財政状況の維持を行っていく。

事業活動収支計算書の収支差額は以下の通りである。	
基本金組入前当年度収支差額	282百万円
基本金組入額合計	△308百万円
当年度収支差額	△26百万円

資金収支計算書の翌年度繰越支払資金は以下の通り、目途としている500百万円を超える額となっている。

翌年度繰越支払資金 860百万円

以上

事業計画、事業報告書の詳細はこちらから



寄付者ご芳名 (2025年2月1日から2025年4月30日現在 掲載承諾者のみ)

サポート<津田スピリット>募金 創立125周年記念事業募金

相内 秀明 様	小澤 英子 様	坂手 直子 様	長尾 真理子 様	松下 恒平 様
青木 憲司 様	笠原 美知子 様	阪本 伊織 様	中嶋 瑞江 様	松田 知也 様
赤松 良子 様	風間 志保 様	相良 祐子 様	永淵 礼央 様	松本 貴子 様
秋山 道子 様	柏木 千奈美 様	櫻井 隆俊 様	長嶺 孝子 様	松本 佳隆 様
麻生田 江美 様	荊尾 遥 様	佐藤 暲 様	中村 友美子 様	三上 智子 様
穴沢 素子 様	兼松 悦子 様	佐藤 佐保子 様	Ms.Nishisako Yoshie 様	岸田 博子 様
穴見 まりえ 様	神岡 祥恵 様	佐原 亜子 様	新田 直子 様	三股 充 様
阿部 博子 様	川端 正和 様	柴田 綾子 様	新田 洋子 様	Ms.Yoko Miyaoaka 様
天羽 清 様	川村 昌子 様	島貫 雄一 様	野沢 紀子 様	宮本 美智子 様
新井 由美子 様	神田 寿恵 様	首藤 理江 様	野田 光代 様	村田 潤子 様
安藤 桂子 様	木川 栄司 様	鈴木 涼子 様	萩谷 友紀 様	百瀬 広之 様
飯田 綾子 様	鬼澤 敏子 様	鈴木 大三 様	橋本 素子 様	守田 美代子 様
井澤 かほり 様	岸本 澄江 様	須藤 力行 様	花尻 恭子 様	守本 圭希 様
石川 敏子 様	北林 浩明 様	仙頭 哲也 様	濱口 浩見 様	守谷 みどり 様
磯野 愛子 様	木村 敦子 様	曾我 辺 康裕 様	濱田 温子 様	柳沢 紀子 様
市村 美穂 様	清原 真里 様	高橋 まゆみ 様	浜野 陽子 様	柳沢 紘子 様
伊藤 喜美子 様	桐村 亘子 様	高橋 光子 様	早川 敦子 様・早川 明子 様	山内 尚子 様
伊藤 義子 様	久保田 泰良 様	滝澤 美佐子 様	久松 和子 様	山口 弘子 様
稲田 和子 様	隈元 保 様	田口 直子 様	平岡 重紀 様	山崎 京子 様
岩城 裕子 様	栗原 敦子 様	田島 和江 様	風田川 綺音 様	山辺 悦子 様
岩崎 梨紗 様	来栖 聆子 様	田中 勝 様	深田 明世 様	吉川 龍雄 様
岩永 旦子 様	黒羽 英子 様	田中 妙子 様	深民 朋子 様	吉田 真紀 様
宇佐美 之規 様	桑野 順子 様	田中 義郎 様	福島 郁子 様	米里 美紀 様
梅津 奈沙美 様	軍地 舞 様	田邊 由望 様	福田 由紀子 様	和田 節子 様
江尻 美穂子 様	計良 真弓子 様	田村 淳子 様	藤井 惇子 様	
大江 市郎 様	小甲 幸雄 様	丹保 晴井 様	藤田 祐子 様	株式会社関電工 様
大岡 美由紀 様	小島 佐代子 様	趙 正義 様	藤野 昌子 様	株式会社大進緑建 様
大里 英雄 様	小関 千智 様	津田 郁子 様	二村 文子 様	株式会社東洋ジービー 様
大澤 邦子 様	小畑 美治 様	津村 幸子 様	古畑 里香 様	桜ヶ丘造園株式会社 様
大塚 光子 様	小林 桂子 様	寺澤 比呂子 様	星 真維美 様	三和シャッター工業株式会社 様
大友 治 様	小宮 仁夫 様	寺島 れい子 様	細川 敦子 様	津田塾大学さくらぼ保育所設置運営会 様
大西 裕子 様	小宮 信市 様	遠矢 有美 様	堀田 頼正 様	東興産業株式会社 様
大森 佳代子 様	近野 洋 様	徳永 由佳 様	前川 和代 様	
大類 久恵 様	今野 由梨 様	戸田 純一 様	牧田 寿賀子 様	匿名 49名
大脇 良子 様	斎藤 浩 様	富田 伊津子 様	正岡 美紀 様	
小上 亜矢 様	齊藤 みどり 様	富高 宏至 様	正木 麻梨恵 様	
荻野 準子 様	坂井 美彩 様	豊島 玲子 様	松岡 文恵 様	

サポート<津田スピリット>募金 ●その他 公益財団法人野村財団 様 匿名 2名

津田塾大学創立125周年記念 国際女性デー特別対談 「変革を担う、女性であること」を開催しました

2025年3月8日、国際女性デーの日に女性起業家のパイオニアである今野由梨氏(ダイヤル・サービス株式会社代表取締役社長、本学英文学科1959年卒業)をお招きして、特別対談「変革を担う、女性であること」を開催しました。当日の朝日新聞の広告記事を見て申し込まれた方を含め、約70名の参加者がありました。会場には国際女性デーのシンボルであるミモザの花が飾られ、創立125周年記念事業のスタートとして、とても華やかで活力あふれる対談となりました。

初めに、今年で89歳になられる今野様の幼少期から戦争時のお話があり、続いて、自身の使命を実現するためどんなことをしてでも東京に出て来ようとしたこと、4年後の就職活動全敗のこと、その後10年間いかにいろいろなことをして実力を身につけたかについて、偶然の出会いや協力者の出現などさまざまなエピソードを交えて語られました。

事業を起すこと、それを継続するために苦労されたことなど実体験に基づくお話は、聞かざるに力を与えてくれるような内容でした。参加した在学生から「使命をもって生きるということ。外国に行き、自分とは全く異なる価値観を得ること。そして、異なる価値観をもつ人びとと実際に会うことがいかに大事か、ということがとても印象に残った。これから女性が活躍していく上で、特に大事だと思っていらっしゃることをお聞かせいただきたい」という質問があり、今野氏は「視野を広げて、視点を高く、地球にまで意識を広げ、専門家に任せるのではなくて、一人ひとりが自分の問題としてやるしかない、そうすれば仕事のしがいも見えてくるし、健康にもなると思う」と回答されました。

また、参加者からは今野氏の最後のメッセージ「起こったことには必ず意味がある」を励みに、あらためて仕事を頑張ろうと思った、などのコメントも寄せられました。



日本ペンクラブ90周年・津田塾大学創立125周年記念 国際委員会シンポジウム「混迷の時代を生きる—韓国現代作家の眼差し」を開催しました (報告：早川 敦子)

韓国で活躍する二人の現代作家、キム・ヨンス氏とウ・ダヨン氏を招聘しての日本ペンクラブ主催の国際委員会シンポジウムに本学も共催、2025年5月16日に千駄ヶ谷キャンパス広瀬記念ホールに約200名の聴衆を迎え、平野啓一郎氏の見事な進行のもとに、多難な現実にあって表現者たちはどのように世界と向き合い、「希望」を描けるのかという深いテーマが熱く語られました。二人は世代も個性も異なる作家でしたが、「光」に向かう意思が響き合って印象的でした。苦悩から眼をそらさず、激変の渦中にも「希望を手放さない」姿勢を創作の日々を通して語るキム・ヨンス氏。他方ウ・ダヨン氏は技術革新の利便性とAIの影響を「環境問題」と指摘し、他人の苦しみを感じとれる力、「わたしたちの」想像力により一層心を向けているのが共感を呼びました。

自身も作家である平野氏の問題意識が二人の登壇者の真摯な言葉を導きだして一通訳者の貢献も素晴らしかったです。小説家が社会を変えようという確信を感じることができたことは、さまざまな世代の聴衆だけでなく本学の学生たちにも大きな喜びになったと思いました。



右から三人目より平野啓一郎氏、キム・ヨンス氏、ウ・ダヨン氏

津田塾大学創立125周年記念 「アイスランド大統領と考えるジェンダー平等のつくりかた」を開催しました

2025年5月31日、千駄ヶ谷キャンパス広瀬記念ホールにて、津田塾大学創立125周年記念「アイスランド大統領と考える ジェンダー平等のつくりかた」を開催しました。本シンポジウムは津田塾大学・朝日新聞社・アイスランド大使館の共催で、高橋裕子学長・角田克朝日新聞社長による挨拶のあと、ハトラ・トーマスドットイル アイスランド大統領のスピーチからシンポジウムが始まりました。

シンポジウムは2部構成で、第1部「女性の政治参画を阻む壁をどう克服するか」では、日本の超党派の国会議員による「クオータ制実現に向けての勉強会」メンバー8名と大統領による討論が行われました。また、第2部「なぜジェンダー平等が必要なのか 若者の目に映る『今』と、つくりたい未来」では、女性の政治参画をテーマにした学内勉強会の参加者である本学総合政策学部4年の学生3名と日本若者協議会のメンバー1名が大統領と意見交換を行いました。第2部には、アイスランドの首都レイキャビク市のヘイザ・ビョルグ・ヒルミストドットイル市長もサプライズで登壇し、大統領と共に質問に答えました。

シンポジウム全体を通して活発な意見交換が行われ、大盛況のうちに幕を閉じました。



津田塾大学創立125周年記念 津田塾大学からの「新しい一歩」： 「わたしたちは何を見たか—新しい平和に向けて」を開催しました

(報告：早川 敦子)

戦後80年と本学創立125周年に新しい一歩を刻す企画が2025年5月31日小平キャンパスで開催されました。吉永小百合さんの朗読会と、交流館内山根記念ギャラリーでの山内若菜展です。

吉永さんは最初に、映画の仕事を通して原爆詩と出会ったことをきっかけに朗読を続けてこられた経験を語り、峠三吉の「序」の日英語両方の朗読から、心を揺さぶられる長詩「慟哭」、さらに福島の子どもの作品まで、言葉を残してくれた人たちの想いを吉永さんご自身の声で伝えて下さいました。静かな感動の波が会場に広がってゆきました。

卒業生の中村優子さんが見事な司会でプログラムを進行、津田塾の学生時代から国際的な活動を続けてきた歩みを語って下さった荊尾遥さん、第二部での大妻中野高校合唱部の生徒さんたちの素晴らしい歌声と、ピアニスト吉村美華子さんやオーケストラ・マミューズの皆さんの演奏、そして山内若菜さんご自身の絵の解説まで、一人ひとりの表現者としての想いが響き合って、過去と現在が繋がり、尊厳のために「何か」をすることが私たちの使命であることに気づかされました。観客の方々とともに「希望」に向かって一歩を歩み出せた一日でした。



山内若菜さんによる、ご自身の絵の解説

海外からの本学訪問

米国 マサチューセッツ州 Tram T. Nguyen 議員およびカンザス州 Laura Williams 議員

2025年2月26日、米国法人 日本国際交流センター (JCIE USA) が主催する、日米女性リーダーズ対話プログラムの一環で、米国マサチューセッツ州 Tram T. Nguyen 議員及びカンザス州 Laura Williams 議員、JCIE 米国法人 エグゼクティブディレクターの加藤和世様をはじめ本件ご担当の方々、また CULCON (日米文化教育交流会議) 事務局の皆さまが本学千駄ヶ谷キャンパスを訪れ、高橋学長、早川副学長、新居国際・学生担当チーフオフィサーと、米国留学経験者である4名の学生が懇談を行いました。

議員のお二人からは、州議員になった理由やこれまでのキャリアと経験、目標などについてお話があり、本学の学生は自身の留学経験、卒業後の進路や夢について発表しました。

高橋学長からの、津田梅子と津田塾大学、ご自身の米国での留学経験についてのお話には全員が大変興味深く聞き入り、本学と米国との深い縁が確認されました。

終了後学生からは、政治に参画し活躍する女性の姿を見て勇気づけられ、今後の学業やキャリアへのよい動機づけになったとの声が聞かれました。



カールトン大学 Alison Byerly 学長との対談

“Why liberal arts education, and where to study? 『今なぜリベラルアーツ教育か』”

2025年3月16日千駄ヶ谷キャンパスにて、公益財団法人グルー・バンクロフト基金、カールトン大学、津田塾大学の共催による講演会 “Why liberal arts education, and where to study? 『今なぜリベラルアーツ教育か』” が開催されました。

本学の高橋裕子学長と米国ミネソタ州にあるカールトン大学の Alison Byerly 学長が登壇し、本学の早川敦子副学長がファシリテーターを務め、対談が行われました。

リベラルアーツ教育の特長としての多方面への関心、批判的思考の滋養などが現代社会において重要な力に繋がるという説明に始まり、リベラルアーツ大学とリサーチ大学との違い、それぞれの大学がもつ特徴と強み、今後のリベラルアーツ教育の展望など、両学長より闊達な意見交換がなされました。質疑応答においては、参加者から多数の質問が寄せられ、リベラルアーツ教育への関心の高さが窺える一幕となりました。

講演後は、両学長を囲むかたちで参加者との交流が図られ、盛況のうちに閉会となりました。

将来の進路を考える高校生や保護者の方々にとって、リベラルアーツ教育についてより深く知っていただくよい機会となりました。



高大連携協定の締結について

本学は、2025年2月12日に鹿児島純心女子中・高等学校（鹿児島県鹿児島市）、2月27日に普連土学園中学校・高等学校（東京都港区）と高大連携協定を締結しました。

本締結は、両校の発展を促進するために、大学と高等学校が包括的な連携に基づき協力して事業を運営することを目的としています。



鹿児島純心女子中・高等学校



普連土学園中学校・高等学校

セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校での学長講演会

2025年3月10日、高橋裕子学長が三重県で唯一の女子校であるセントヨゼフ女子学園高等学校・中学校から国際女性デーのイベントに招かれ、卒業した6年生を除く全校生徒を対象に「高い教育を求めるとのこと」というテーマで講演を行いました。

講演では、津田梅子が日本では得られなかった大学教育の機会を海外で求めたように、高い教育を国内外で求めることでさまざまな可能性が広がることを強調しました。また、大学受験は人生の一つの通過点に過ぎず、大学での4年間に加えて大学院への進学や留学等を視野に入れることで進路選択の幅を広げることの大切さや、人生100年時代において生涯学び続けることの必要性についても伝えました。

講演の前には、教職員の朝礼でご挨拶し、さらに講演終了後はシスターの三谷理事長や原田校長とも懇談しました。温かく歓待していただいたことが印象的でした。生徒一人ひとりをきめ細やかに指導する学校文化は、本学と共通するものを感じます。国際女性デーのイベントを、女子生徒のエンパワメントにつなげる機会として重視されていることも伝わってきました。



2024年度第3・4ターム 授業に関するアンケート実施結果

2024年度第3・4タームの授業に関するアンケートを11・1月に実施しました。延べ48,480人の履修者数に対して回答者数は16,811人、回答率は34.7%でした。設問1～12、18～25は、授業が適切に実施されていたかの評価となっており、すべての設問において4点以上と高評価を得る結果となりました。設問13～15、17は、学生が自分自身の受講姿勢を振り返る設問となっております。昨年度同時期から評価が低かった項目は、19 クラスレポートの実施、20 レポート等の返却の2つです。

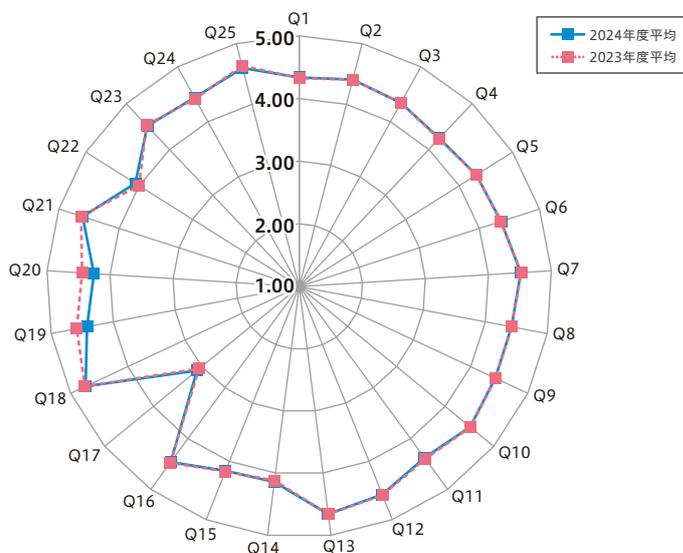
これら結果については各学科・関連委員会等で確認し、問題点の共有・検証・改善を行っており、その取組状況を全学教務委員会において確認しています。今後もアンケートを実施し、活用していきます。

授業に関する設問

- この授業を受講する際に、シラバスは有用でしたか。
- 各回の授業のねらいは明確に理解できましたか。
- 各回の授業の内容は理解できましたか。
- 授業で到達目標としている内容が身についたと思いますか。
- 課外学修の指導（参考文献の提示、文献の調べ方など）は適切でしたか。
- この授業を受講して、テーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか。
- この授業はよく準備・計画されていたと思いますか。
- 教員は受講者とコミュニケーションをとる努力をしていましたか。
- 教科書・授業レジュメプリントや参考文献は、講義内容の理解に効果的でしたか。
- 教員の声の大きさや話し方は適切でしたか。
- 板書やパワーポイント等の資料はわかりやすかったですか。
- 教員は静かな環境で受講できるよう努力していましたか。
- 総合的に判断してあなたはこの授業に満足しましたか。
- 教員は何回ぐらい休講（補講のないもの）をしましたか。
- 教員はクラスレポート（口頭発表）を課し、論評していますか。
- 教員はレポート等の返却（またはその告知）をしていますか。
- 教員は自主的発言を重んじ、評価していますか。
- 教員は学生一人一人の学修状況、理解の程度を把握していますか。
- 教員は質問の機会を与え、適切に答えていますか。
- 教員は宿題や小テストを課しましたか。
- 教員は授業の時間を守っていましたか。

受講姿勢に対する自己評価

- 授業を静かな環境で受講できるよう努力しましたか。
- この授業に積極的に参加し、意見や質問を述べるよう努力しましたか。
- この授業の今までの欠席回数は何回ですか。
- この授業に関して、授業時間外で学修に当たった時間は毎週どれくらいでしたか。
※文献調査・資料収集を行った時間も含む



ようこそ津田塾大学へ (留学生紹介)

2025年4月に12名の交換留学生在津田塾大学に入学しました。皆さま、どうぞよろしくお願いたします。

●CYセルジー・パリ大学 (フランス)

SEVELE MAIWENN VICTOIRE LUCIE
(セベル マイウェヌ ヴィクトワール ルシー) / 国際関係学科
TAILLEFOND LEA VALENTINE
(タユフォン レア ヴァレンチヌ) / 国際関係学科

●ハインリッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ (ドイツ)

SOLHEID JASMIN
(ゾールハイド ヤスミン) / 多文化・国際協力学科

●インディアナ大学インディアナポリス (アメリカ)

AGUILAR AGUILAR ANGIE
(アギラー アギラー アンジ) / 国際関係学科
BRAZDA ELIZABETH ESTELLE
(ブラズダ エリザベス エステル) / 国際関係学科
WILLIAMS KENLEY LEILANI
(ウィリアムス ケンリー レイラニ) / 国際関係学科
SMITH ATIYA GENESIS
(スミス アティヤ ジェネシス) / 多文化・国際協力学科

●梨花女子大学 (韓国)

BAEK JIYEON (ベク ジヨン) / 国際関係学科
KO YUNJIN (コ ユンジョン) / 情報科学科
OH SEOYEON (オ ソヨン) / 情報科学科

●淡江大学 (台湾)

HUNG LI YUN (コウ リユン) / 国際関係学科
LIN YI HSUAN (リン イケン) / 国際関係学科

(大学別)



2025年度高校生フィールドワーク・コンテスト

2025年5月31日小平キャンパス（オンライン併用）にて、多文化・国際協力学科による高大連携のとりくみとして、第2回高校生フィールドワーク・コンテストを実施しました。43の個人・グループからの応募があり、応募者、高校教員、保護者及び、本学科教員7名と学生5名が集まる中、書類審査によって選ばれた10組がプレゼンテーションを披露しました。首都圏からの応募者が多かった一方、当日の発表では、大阪、石川、愛知、群馬、栃木、カナダといった遠方からの参加者も目立ちました。発表後に教員が審査を行い、右記の賞を授与しました。また講評を学科Webサイト及びソーシャルメディアにて公表しました。



■最優秀賞

野田 峻佑

(金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校)
「もてなしドーム」から地域の空間スケールを再考する
—地域独自基準の開発とその可能性—

■優秀賞

東泉 伊恭・印南 侑璃

(栃木県立矢板東高校 リベラルアーツ同好会)
御前原秘密飛行場についての口述歴史
—滑走路の様相に迫る—

河野 未悠(聖心女子学院高等科)

当事者から学ぶ、差別と向き合う方法
～ハンセン病の事例を踏まえて～

2025年度入試結果報告

2025年5月1日時点

学芸学部	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
英語英文学科	220	1,075	1,038	851
国際関係学科	200	1,352	1,297	861
多文化・国際協力学科	70	483	459	284
数学科	45	216	206	168
情報科学科	45	177	166	140
学芸学部計	580	3,303	3,166	2,304
総合政策学部	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
総合政策学科	110	1,099	1,008	351
総合政策学部計	110	1,099	1,008	351
計	690	4,402	4,174	2,655

大学院（修士課程）	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
文学研究科	15	14	12	9
国際関係学研究科	10	8	7	4
理学研究科	10	18	16	14
修士課程計	35	40	35	27
大学院（後期博士課程）	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
文学研究科	5	3	2	0
国際関係学研究科	3	2	2	2
理学研究科	3	3	3	3
後期博士課程計	11	8	7	5
計	46	48	42	32

※単位は人数。一般選抜の他に、総合型選抜、学校推薦型選抜、特別入試、社会人入試を含みます。編入は含みません。

理事会・評議員会開催報告

第339回理事会

2025年1月31日

【審議事項】

- 令和6年度人事院勧告に伴う本学教職員の給与改定に関する件

【報告事項】

- 私立学校法改正に伴う寄附行為変更認可について
- 本館天井改修の方針について
- 「創立120周年記念事業のご報告」と「ありがとうの花束をII」について
- その他

第340回理事会

2025年2月12日～2月19日

【審議事項】

- 非常勤講師契約不更新訴訟に関する件

第341回理事会

2025年3月7日

【審議事項】

- 2025年度事業計画(案)に関する件
- 2025年度予算(案)に関する件
- 津田塾大学学則の改正に関する件
- 津田塾大学大学院学則の改正に関する件
- 内部統制システム整備に伴う規程整備に関する件
- 新寮設計・施工業者選定に関する件

【報告事項】

- 元非常勤講師契約不更新訴訟について
- ウェルネス棟の基本設計案について
- その他

第206回評議員会

2025年3月27日

【審議事項】

- 評議員会運営規程の制定に関する件
- 副議長の選任に関する件
- 理事選任会議運営規程の制定に関する件
- 理事選任会議議員の選出に関する件

【諮問事項】

- 2025年度事業計画(案)に関する件
- 2025年度予算(案)に関する件
- 第2号基本金計画変更に関する件

【報告事項】

- 寄附行為変更認可について
- 内部統制システムの整備について
- 私立学校法改正に対応する会議日程について
- 創立125周年記念事業募金について
- 創立120周年記念事業の報告について
- 建設・改修について(ウェルネス棟・新寮・新2号館建設・本館天井改修)
- 新学部設置準備状況について
- 2024年度事業計画に係る中間報告について

第342回理事会

2025年3月27日

【審議事項】

- 2025年度事業計画(案)に関する件
- 2025年度予算(案)に関する件
- 第2号基本金計画変更に関する件
- 内部統制システム整備に伴う規程整備に関する件
- 理事選任会議議員の選出に関する件

6. 本館天井改修の施工業者選定に関する件

【報告事項】

- 次期学長室の体制について
- 「ありがとうの花束をII」について
- 新2号館建設に係る基本計画について
- 新学部設置準備状況について
- 2024年度内部監査報告について
- 2024年度卒業式について
- その他

第343回理事会

2025年4月25日

【審議事項】

- 代表業務執行理事及び業務執行理事の選定に関する件
- 学校法人津田塾大学監事監査規程の修正に関する件
- 役員・評議員報酬等規程の改定に関する件
- 役員辞任に関する件
- 評議員会の招集及び議案に関する件

【報告事項】

- 名誉教授称号授与及び津田塾友の称号授与について
- 2025年度入試志願者状況と入学者数について
- 2025年度内部監査計画について
- 理事の競業に係る個別承認について
- その他



お知らせ

保証人の皆さまへの成績公開について

保証人の皆さまも本学ポータルサイト「TsudaNet」にて成績を確認できるようになりました。2年生以上の方は、前年度第4タームまでの成績を参照することができます。本学公式Webサイトの「在学生の方へ」▶「システム」▶「TsudaNet」からアクセスし、同封のユーザーID・パスワード通知文書に記載の内容を入力してログインしてください。画面左側「メニュー」の「学生カルテ」を選ぶと、成績が表示されます。また、最下部の「PDF出力」を押すと、成績通知書のPDFファイルを閲覧できます。2025年度の成績発表は以下の日程を予定しております。

- 第1ターム：7月下旬
- 第2ターム：8月下旬
- 第3ターム：12月中～下旬
- 第4ターム：2月中旬（4年生）、3月上旬（3年生以下）

大学基準協会による 大学評価(認証評価)結果 について

本学は、2023年11月に、大学評価（認証評価）の申請を公益財団法人大学基準協会に対して行い、この度、大学基準の適合を認める評価結果を受理しました（認定期間は2032年3月31日までの7年間）。



詳細は以下のWebサイトよりご確認ください。
<https://www.tsuda.ac.jp/aboutus/disclosure/assessment/index.html>

津田梅子記念会 & ホームカミングデー 津田塾大学 創立125周年記念式典

2025年10月12日(日) 会場：津田塾大学 小平キャンパス

●午前の部 (10:00~12:30)

- ・津田梅子記念礼拝
- ・創立125周年記念式典
- ・高校生エッセー・コンテスト表彰式
- ・津田梅子賞贈賞式

●午後の部 (13:30~15:30)

- ・記念講演会：倉茂由美子（2024年度ポーン・上田記念国際記者賞[※]受賞者）が語る「変革を担う、女性であること」

※同賞は、報道を通じて国際理解の促進に顕著な貢献のあった記者に贈られるもので、倉茂氏はウクライナの戦争被害者の激しい体験を徹底取材したルポで高く評価されました。

倉茂由美子氏は現在、読売新聞ローム支局に勤務。2005年国際関係学科卒業。

●その他のイベント

- ・津田梅子資料室企画展示
- ・山根記念ギャラリーでの展示 等を予定

●連絡事項

当日、同期会や有志で会場使用をご希望の場合は、大学の教室等を会場としてご使用いただけます。ご希望の方は、経営企画課にお申込みください。なお、使用会場・時間帯は行事との関係で調整させていただきます。ご了承ください。

●お申込み・問い合わせ

経営企画課 TEL：042-342-5146

E-mail：forum@tsuda.ac.jp

*詳細は決まり次第、大学公式Webサイトで公開いたします。

夏期・冬期公開講座（大学院文学研究科英語教育実践研究）

文学研究科英語教育実践研究では、現職の英語教員、英語教育について学ぶ学生・大学院生、英語教育に関心のある方を対象に、公開講座を実施いたします。詳細は大学公式Webサイトをご覧ください。

夏期公開講座「効果の上がる英語発音指導を考える」

- 日 程：2025年8月18日(月)、19日(火)、20日(水)、22日(金)、23日(土) 各日とも10:30~12:00

- 講 師：小川直樹先生

- 開催形式：オンライン (Zoom)

- 定 員：60名

- 受講料：各回2,500円（本学学部生1,000円）、全日程申込の場合は10,000円。

本学専任教員・非常勤講師、本学大学院生の受講料は無料。いずれも要事前申込。

- 申込方法：申込みフォームまたはQRコードからお申し込みください。

- 申込締切：2025年8月4日(月)

- 問い合わせ：文学研究科英語教育実践研究担当 E-mail：e-info@tsuda.ac.jp

【申込みフォーム】

<https://forms.gle/brwe7DsrVn64VpnR7>



冬期公開講座「現代の英語教育実践で考慮すべき課題とは」

- 日 程：2025年12月23日(火)、24日(水)、26日(金)、27日(土) 各日とも10:30~12:00

- 開催形式：オンライン (Zoom)

※詳細は10月頃、大学公式Webサイトにてお知らせいたします。

第66回 津田塾祭（小平キャンパス）

2025年10月18日(土)、19日(日)に小平キャンパスにて津田塾祭を開催します。

公式X：@tsudajukusai

公式Instagram：tsudajukusai

公式Webサイト：<https://sites.google.com/view/tsudafes66>

第9回 津田ヶ谷祭（千駄ヶ谷キャンパス）

2025年11月22日(土)、23日(日)に千駄ヶ谷キャンパスにて津田ヶ谷祭を開催します。

公式X：@Tsudagaya

公式Instagram：tsudagaya_fes

公式Webサイト：<https://tsudagaya.jp/>



お知らせ

2025年度 第25回 高校生エッセー・コンテスト —80年前に生まれた「世界一強い女の子」— 〈長くつ下のピippi〉が今いたならば……

- 募集内容:** 大学公式Webサイトに掲載している募集要項裏面の英文を読んで、「〈長くつ下のピippi〉が今いたならば……」をテーマにしたエッセーを書いてください。英語の場合は400words程度、日本語の場合は1000~1200字程度。
(<https://www.tsuda.ac.jp/aboutus/essay/index.html>)
- 応募資格:** 高校生(国籍・学年・性別・居住地は問いません)
- 応募方法:** 所定の申込みフォームにエッセーを記載して応募(郵送・持ち込みは不可)。
【申込みフォーム】<https://forms.gle/7mrV6vK72Mnt6WUs5>
- 募集期間:** 2025年8月1日(金)~9月2日(火) 12:00受付締め切り
- 表彰:** 最優秀賞1名(賞状及び副賞5万円を贈呈)
優秀賞若干名(賞状及び副賞1万円を贈呈)
受賞者は、9月中に津田塾大学公式Webサイトで公表します。最優秀作品は津田塾大学において表彰し、津田塾大学広報誌『Tsuda Today』と津田塾大学公式Webサイトに、優秀作品は津田塾大学公式Webサイトに掲載・公表します。なお、応募作品の著作権はすべて津田塾大学に帰属します。
- 問い合わせ:** 津田塾大学ライティングセンター 高校生エッセー・コンテスト事務局
(TEL : 042-342-5142 E-mail : essaycon@tsuda.ac.jp)



2025年度 オープンキャンパス

- 小平キャンパス(学芸学部)
8月9日(土)、2026年3月21日(土)
- 千駄ヶ谷キャンパス
8月3日(日)、2026年3月15日(日)

詳細は以下のWebサイトで
ご確認ください。

<https://opencampus.tsuda.ac.jp/>



津田梅子記念交流館プログラム

プログラムの詳細は、津田梅子交流館Webサイト(<https://koryukan.tsuda.ac.jp>)をご覧ください。



夏休み子ども英語プログラム~津田塾生とつくる英語劇2025~ 「星の王子さま~目に見えない大切なもの~」

- 日程: 7月28日(月)~8月3日(日) (7月31日(木)を除く)
- 時間: 10:30~14:30
- 場所: 津田塾大学小平キャンパス
- 対象: 小学校5年生~中学2年生
- 受講料: 12,000円
- 定員: 24人

津田塾1日体験 day

- 日時: 9月15日(月・祝) ※事前予約制
10:30~16:10 (2時限~4時限)
- 対象: 高校1~3年生(既卒生も可) 女子

津田塾大学の学生が実際に受けている授業
を体験してみませんか?

予約方法・科目名等詳細は、決定次第大学
公式Webサイトでお知らせします。

英語教員のためのワークショップ

- 講師: 小西 正恵氏、山中 司氏、
高木 亜希子氏
- 日時: 8月11日(月・祝)
10:00~16:45
- 定員: 50人
- 受講料: 6,000円

数学教員のためのワークショップ

- 講師: 小林 俊道氏、野町 直史氏、
小森 弘三氏、日詰 明男氏
- 日時: 8月2日(土)、3日(日)
9:00~16:20
- 定員: 20人
- 受講料: 8,000円

本学在学生の受講料は半額です。

● お申込み・問い合わせ: 経営企画課 TEL : 042-342-5146

● 表紙への想い ●

緑回廊のハーツホン・ホール
CHIKU

小平キャンパス、ハーツホン・ホールへの緑の小径。木々に包まれた回廊の先に見える南玄関は、正面玄関とは一味違った、静かな趣があります。森にひっそりと洋館がたたずむ物語の一場面のような風景に、想像がふくらみました。



1900-2025
125th Anniversary
2025年、津田塾大学は
創立125周年を迎えました

Tsuda Today No.134 発行日 ● 2025年7月17日 発行 ● 津田塾大学

編集 ● 経営企画課 〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1 Tel. 042-342-5113 <https://www.tsuda.ac.jp/>
表紙切り絵 ● CHIKU (種村千明・2000年卒)